

横手市水道事業の 経営状況

YOKOTE CITY

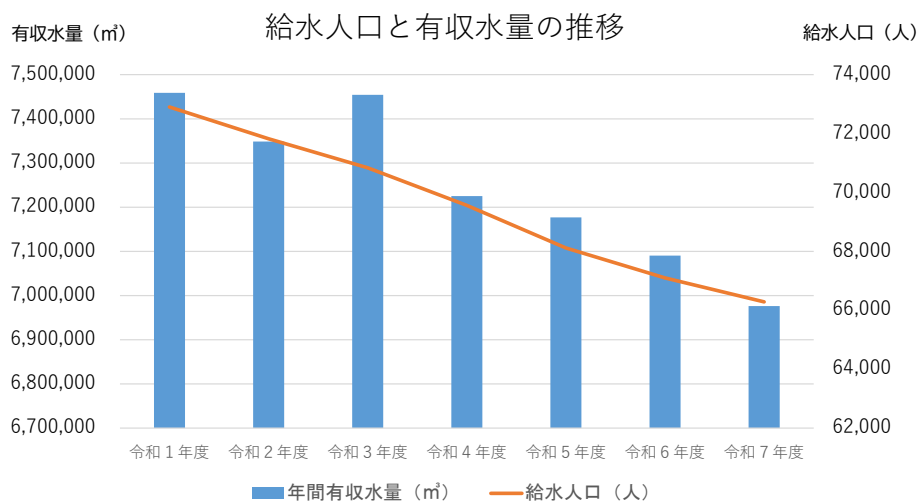
横手市上下水道事業経営協議会



横手市役所

1. 給水人口と有収水量の推移

水道事業の経営は加入者の皆さまからいただく「水道料金」から成り立っています。その水道料金収入に直結する給水人口と有収水量の推移は以下のグラフのとおりです。



有収水量とは？

水道料金徴収の対象となった給水量をいいます

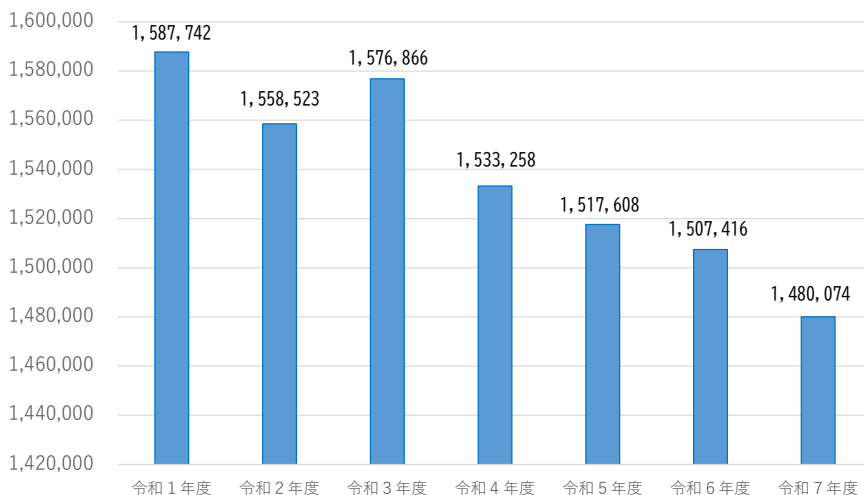
想定される主な減少要因

- ・ 少子高齢化に伴う人口減少
- ・ 節水意識の向上や節水機器の普及など

2. 水道料金収入の現状

料金収入（千円）

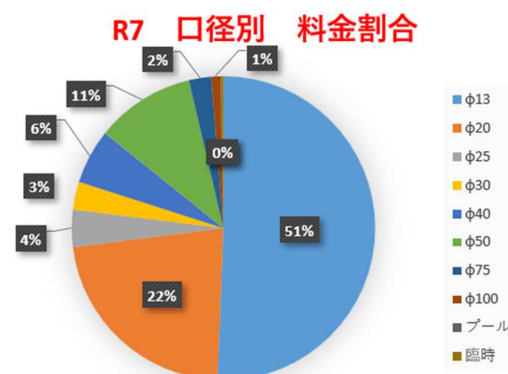
水道料金収入の推移



水道料金収入の現状

毎年1～2%づつ料金収入が減少しています。金額にすると1～2千万ほどの減少額となります。

水道料金は減少しても水を作る経費は減少しないため、経営は苦しくなります。



3. 横手市水道事業の料金体系

単位：円

口径	基本料金	従量料金 1～5m ³	従量料金 6～10m ³	従量料金 11～20m ³	従量料金 21～50m ³	従量料金 51m ³ ～
13ミリ	1,177	0	99	198	264	275
20ミリ	1,540	0	99	198	264	275
25ミリ	1,540	264	264	264	264	275
30ミリ	2,750	264	264	264	264	275
40ミリ	4,730	264	264	264	264	275
50ミリ	10,780	264	264	264	264	275
75ミリ	19,800	264	264	264	264	275
100ミリ	39,600	264	264	264	264	275
公立プール用	なし	132	132	132	132	132
臨時用	なし	473	473	473	473	473

- ・口径・・・各戸に接続されているメーターの口径
- ・基本料金・・・毎月かかる定額料金
- ・従量料金・・・使用水量に応じて加算される料金

【計算例】

13ミリのご家庭で月16m³使用した場合

基本料金 1,177円

従量料金 1～5m³ 0円

6～10m³ 99円×5m³=495円

11～16m³ 198円×6m³=1,188円

合 計 2,860円

4. 費用構成の比較

単位：千円

区分		令和2年度	令和7年度	増減	伸び率
職員給与費	職員の給料・諸手当	200,211	213,005	12,794	6.4%
減価償却費	固定資産の購入額を耐用年数に合わせて分割のうえ、費用計上する費用	734,145	725,994	▲8,151	▲1.1%
支払利息	企業債などの借入金に対する利息	203,882	114,521	▲89,361	▲43.8%
動力費	機械装置等の運転に必要な電力・動力費	101,367	142,788	41,421	40.9%
光熱水費	事務所等の電気、ガス料金等	4,312	5,305	993	23.0%
通信運搬費	郵便料金や電話、インターネットなどの通信費	5,555	6,336	781	14.1%
修繕費	有形固定資産の維持修繕に要する工事請負費等の費用	69,814	66,400	▲3,414	▲4.9%
材料費	有形固定資産の維持修繕に要する諸材料費	3,448	4,731	1,283	37.2%
薬品費	原水の沈でんや浄水の滅菌に要する薬品費	21,955	33,504	11,549	52.6%
路面復旧費	配水管の修理等に係る道路の修復費	2,664	2,613	▲51	▲1.9%
委託料	水質試験、浄水方法の試験研究等の委託に要する費用	212,096	251,214	39,118	18.4%
その他	負担金など上記に分類されないその他費用	82,639	55,850	▲26,789	▲32.4%

横手市上下水道事業経営協議会

4

5. 決算数値の比較

単位：千円

単位：千円

【収益】	令和2年度	令和7年度	差 額
総 収 益	1,922,296	1,798,200	▲124,096
営業収益	1,621,365	1,544,279	▲77,086
給水収益	1,558,523	1,480,074	▲78,449
受託工事収益	156	12	▲144
その他営業収益	62,686	64,193	1,507
営業外収益	300,930	253,921	▲47,009
受取利息	520	4,036	3,516
他会計補助金	96,241	64,077	▲32,164
長期前受金戻入	200,076	183,758	▲16,318
雑収益	4,093	2,050	▲2,043
特別利益	1		▲1

【費用】	令和2年度	令和7年度	差 額
総 費 用	1,847,650	1,815,831	▲31,819
営業費用	1,642,130	1,699,164	57,034
原水及び浄水費	263,336	309,886	46,550
配水及び給水費	179,877	234,905	55,028
受託工事費	5,481	9,795	4,314
業務費	149,296	148,258	▲1,038
総係費	83,137	80,174	▲2,963
減価償却費	934,221	909,753	▲24,468
資産減耗費	26,782	6,394	▲20,388
営業外費用	205,518	116,650	▲88,868
支払利息	203,882	114,521	▲89,361
雑支出	1,636	2,128	492
特別損失	2	17	15
当年度純利益 (▲純損失)	74,646	▲17,631	▲92,277

横手市上下水道事業経営協議会

5

6. 水道料金の「料金回収率」

水道料金収入（供給単価）で給水費用（給水原価）をどれだけ回収できているかを示す指標を、「料金回収率」と言います。100パーセントを下回る場合は、水道料金収入だけではすべての費用を賄えていないことを示します。健全経営を行うためには供給単価が給水原価を上回らなければなりません。横手市の令和7年度の料金回収率は91.24パーセントで同規模の事業体の平均値と比較しても低い数値となっています。

令和7年度の料金回収率

供給単価（212.16円）÷ 給水原価（232.54円）

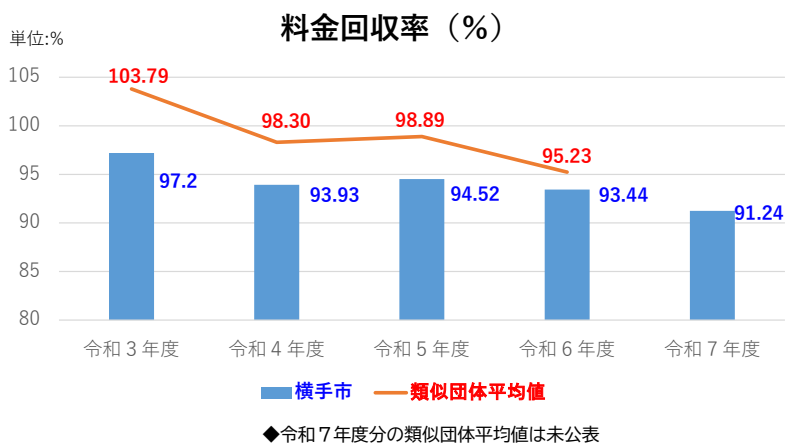
= 料金回収率 91.24%

◆ 給水原価

水道水1m³あたりの費用
経常費用を有収水量で割って算出

◆ 供給単価

水道水1m³あたりの収入
水道料金収入を有収水量で割って算出



横手市上下水道事業経営協議会

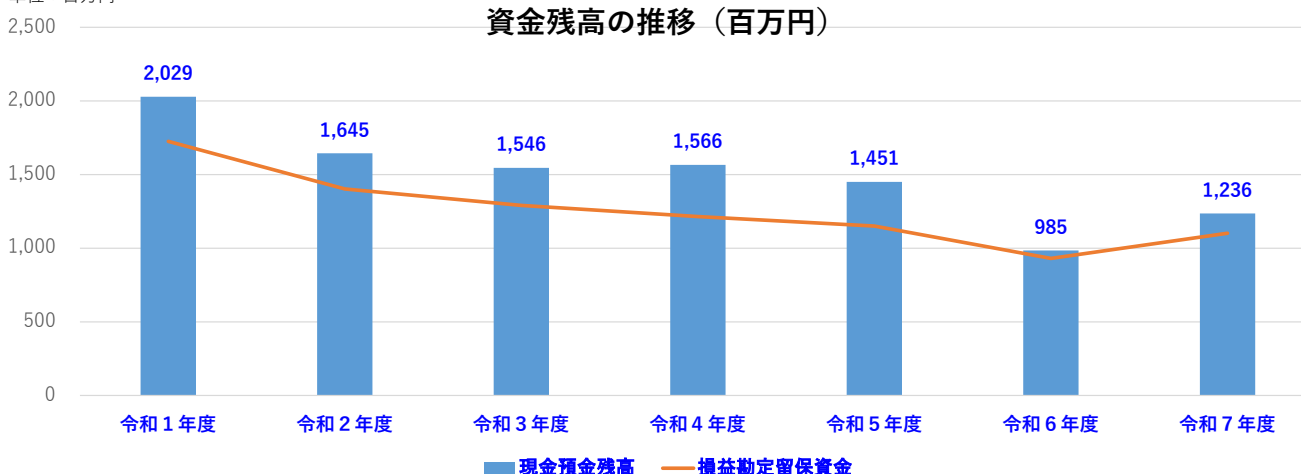
6

7. 資金残高の状況

令和7年度末時点での横手市水道事業の現金預金残高はおよそ12億3600万円です。令和元年度の残高と比較すると7億9300万円ほど減少しています。

資金収支の赤字を補てんするため、資金残高は近年減少を続けています。

単位：百万円



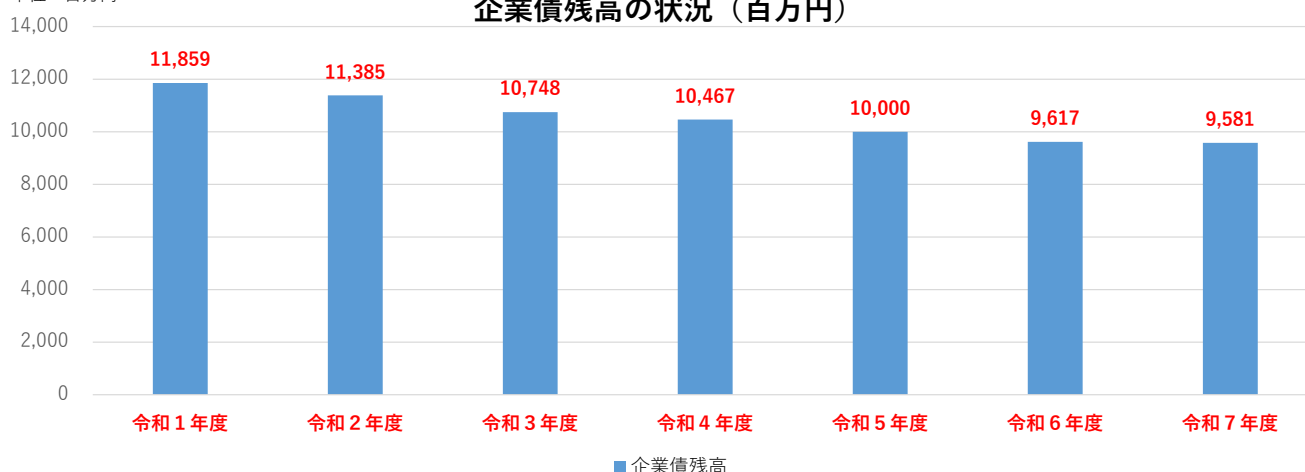
横手市上下水道事業経営協議会

7

8. 企業債（借金）の状況

令和7年度末時点での横手市水道事業の企業債残高はおよそ95億8100万円です。年間の水道料金収益に対して7倍程度の企業債を保有しています。

単位：百万円



横手市上下水道事業経営協議会

8

9-1. 経営改善への取組状況

水道管や施設の老朽化に伴う維持管理費や改修費の増加に加えて、給水人口の低下や物価高騰などの社会情勢の影響を受け、水道事業の経営が非常に厳しくなっています。こうした中、水道事業では現行の水道料金を維持していくために、業務の民間委託や組織再編による職員の削減等、大きな効果が望める取組みを実施してきました。

○ 上下水道料金徴収業務委託開始（平成23年から） 年間1,400万円削減

- ・ 料金徴収部門を民間委託
- ・ 各地域局の窓口を廃止して人件費を削減
- ・ コンビニでの料金支払いの開始

○ 検針方法の変更（令和3年度から） 年間 900万円削減

- ・ 隔月検針と隔月請求、冬期推定を全地域に導入し、検針請求費用を削減
- ・ 納入通知書の即時発行による郵送費削減

○ 組織再編（簡素化）による職員数の削減 職員数 ▲22人

- ・ 職員数 平成21年度 56人（うち短時間勤務 18人） → 令和8年度 34人（うち短時間勤務 16人）
- ・ 4課及び各地域局体制を2課体制に
- ・ 料金徴収業務を民間委託、経営管理部門を下水道事業と統合、各地域局窓口廃止により職員数を減

そのほか、冬期推定水量や検満メーター交換の通知方法を変更するなどして、1年あたり100万円以上の経費削減を図っています。

横手市上下水道事業経営協議会

9

9-2. 経営改善への取組状況（つづき）

○ 企業債償還方法の見直しによる支払利息等の削減

- ・高利企業債の繰上げ償還または低利借り換え 支払利息 3億8,890万円削減
- ・元金償還据置廃止による支払利息の削減、元金償還方法を元金均等償還に変更（支払金の平準化）

○ 水需要に合わせた施設規模の最適化及び施設の統廃合

- ・施設統合による主な廃止施設
 - ◆浄水場・・・[横手]金沢、[増田]吉野、[雄物川]北部、船沼、二井山、[十文字]中央団地、[山内]黒沢、[大雄]大雄
 - ◆配水（調整）池・・・台所町、明永町、中島、朝日が丘、美人山、墓地公園、中央団地、山内黒沢
- ・将来更新費用の削減

○ 水道広域化事業 西和賀町柳沢浄水場系の施設共同利用（令和7年から）

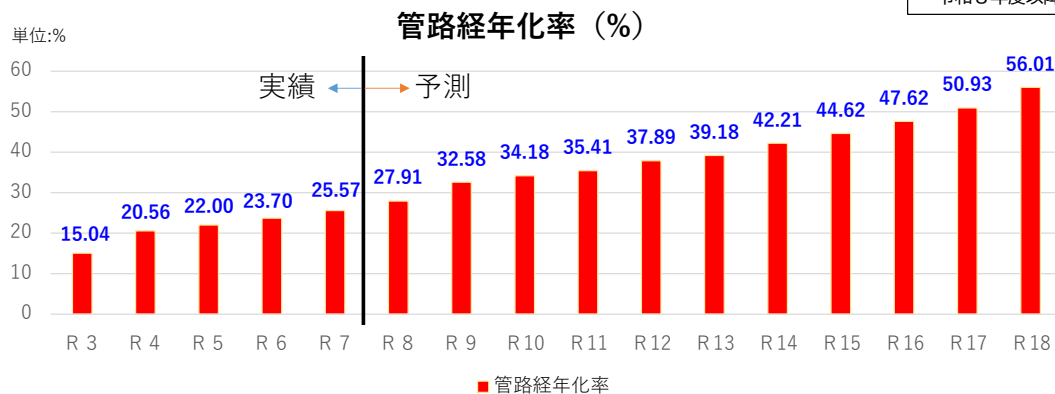
- ・西和賀町の施設共同利用により横手市黒沢浄水場の築造計画を取りやめ（将来更新費用が不要）
- ・年間維持管理費を低減

10. 水道施設の老朽化と更新需要

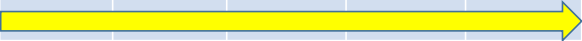
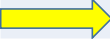
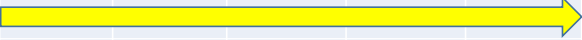
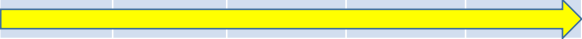
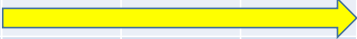
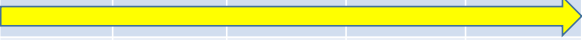
1) 管路経年化率の増加と今後の見通し

水道管については耐用年数40年を超えた老朽管が令和7年度で25.57パーセントとなりました。横手市内の配水管の4分の1以上が老朽管となっている状況です。計画的な更新を行っていかなければ、漏水や断水事故が発生し、安心・安全な水を安定的に供給することができなくなる可能性があります。

下のグラフは管路更新を行わない場合の令和18年までのシミュレーションです。



2) 今後の更新計画

	概算事業費 (億円)	区分	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
未普及地域解消事業	2.41	設計・管路整備					
成瀬ダム負担金	0.5	負担金					
雄物川浄水場建設事業	17.74	建設					
成瀬第一浄水場建設事業	0.1	調査					
愛宕山配水池更新事業	14.98	建設					
配水管網ブロック化事業	2.79	設計・管路整備					
老朽管更新・耐震化事業	34.59	管路整備					
電気・次亜注入・計量設備等更新	1.15	設備更新					
ポンプ設備更新	0.65	設備更新					
大沢第二浄水場膜ろ過設備更新	2.31	設備更新					
工具器具更新、量水器新規取付	0.18	設備更新					
その他更新、事業費支弁人件費	3.02	設備更新					
計	80.42						

横手市上下水道事業経営協議会

12